

日程第2．一般質問

○議長（松尾徹郎君）

日程第2、一般質問を行います。

16日に引き続き、通告順に発言を許します。

横山人美議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。〔3番 横山人美君登壇〕

○3番（横山人美君）

みらい創造クラブの横山人美でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、これからの糸魚川市にとって望ましい社会インフラの維持管理と統廃合を含めた在り方検討の推進の必要性について。

高度経済成長期以降に整備された社会インフラが年数の経過とともに老朽化し、これから大量に更新時期を迎える全国的な背景を踏まえ、糸魚川市では、「糸魚川市公共施設等総合管理指針」を、まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口減少に対応するための「調整戦略」の一つとして糸魚川市総合計画との整合を図り、公共施設等全体の管理に関する上位計画として位置づけています。

指針の中にある道路、橋りょう、上下水道などのインフラ資産は市民生活に直結し、公園などの公共施設は幅広い年齢層の多様な活動の拠点であるとともに、近年多発する災害発生時には市民を守る場所として、どちらも持続可能な維持管理体制の構築が必要であると考えます。

一方、社会インフラを維持するための担い手として活躍する建設業事業者は、人口減少とともに全国的に高齢化が進行し、次世代への技術承継が大きな課題となっており、糸魚川市も例外ではなく、社会インフラの健全な維持管理の転換期を迎えていると考えます。

これらの課題が市民生活、各種経済活動へ影響を与える前に、これからの糸魚川市にとって望ましい社会インフラの維持管理と在り方検討の推進の必要性について共に考えたく、以下の質問をいたします。

- (1) 糸魚川市における社会インフラの現状と維持管理体制の課題について伺います。
- (2) 人口減少や労働力不足が懸念されるこれから糸魚川市において、社会インフラの新たな維持管理体制の構築や統廃合の必要性についてのお考えを伺います。
- (3) 社会インフラの持続可能な維持管理体制の構築の方策として、これからの官、民、市民それぞれにおいて望ましい姿を実現すべく「公共施設包括的民間委託」の導入を検討してはいかがでしょうか。

2、ひとみかがやく日本一の子どもをはぐくむための保育・教育・子育て支援の現場における人材の資質向上の必要性について。

全国の保育施設で園児への暴行や虐待といった「不適切な保育」が相次いだことを受けて、こども家庭庁は全国調査を行い、2022年4月から12月の間に保育所では914件の「不適切な保育」が確認されたと公表しました。

資格の有無に関係なく、子供たちの人格を育む重要な期間に関わる者として、保育、教育技術はもちろん、豊かな人間性や社会性、常識と教養、礼儀作法をはじめ、対人関係能力、コミュニケーション能力などの資質は、その職に就く限り自らの中に完成形を持たず、日々研さんされるべきものと考えます。

昨今増加する保育・教育現場の事件・事故の発生を、糸魚川市において未然に防ぎ、子供たちの健やかな成長のために必要なことを共に考えたく、以下の質問をいたします。

- (1) 保育・教育・子育て支援施設における事故に至らなかった事例の収集・共有等に関する調査研究の実態と課題について伺います。
- (2) それぞれの現場において、資格を持たず業務に携わる職員の就業前の研修、就業中の資質向上の必要性についての考えを伺います。
- (3) 令和3年6月定例会で地域における子供たちに関わる人材育成、令和4年3月定例会で保育所における研修体制についての質問をいたしました。その後の進捗、現場の様子を伺います。
- (4) 糸魚川市の民間活力と連携して保育・教育人材の資質向上を図る方策を検討してはいかがでしょうか。

3、2035年9月2日、糸魚川市で見られる皆既日食について。

2035年9月2日に日本で皆既日食が起こります。日本国内で見られる皆既日食としては、今世紀最大と言われた2009年の日食から26年ぶり、また日本列島で見られるものとしては、1963年に北海道で見られて以来72年ぶり、さらに本州では1887年8月19日以来148年ぶりの皆既日食です。この日食における細い皆既帯の中心が糸魚川市内フォッサマグナパーク付近を通ると示され、市内各所で皆既日食が見られると予想されます。

世界には皆既日食における経済効果として、それに伴い人々が仕事を休むことによる経済損失も話題になるほど注目を浴びた事例があり、赤倉温泉では、この皆既日食の15年前からこれを誘客に利用しています。

この機会を12年後のいつかの観光資源にするのではなく、近い将来を見据えた観光誘客や教育資源と捉え、国内外に糸魚川を発信する方策の一つとしてはいかがでしょうか。

以上、よろしく願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

横山議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、当市は市域が広大であることから、多くのインフラ施設を有しており、今後の老朽化に対応するため、維持管理の効率化や施設の長寿命化を図る取組が課題であります。

2点目につきましては、効率的な管理や人材を補完するため、民間事業者等と連携した新たな維持管理体制の構築が必要であると考えております。

また、統廃合については、市民生活に直結するため、慎重に検討してまいります。

3点目につきましては、現在公営企業の管理施設において、官民連携による事業運営の手法について調査を進めているところであり、今後、他のインフラ施設においても民間事業者等を活用した維持管理手法について検討を進めてまいります。

2番目のご質問につきましては、この後、教育長から答弁をいたしますので、よろしくお願いいたします。

3番目につきましては、一過性の天体ショーに終わることなく、観光事業者との連携や地球化学的な視点から、ジオパーク学習の貴重な機会として活用が考えられます。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

靄本教育長。〔教育長 靄本修一君登壇〕

○教育長（靄本修一君）

おはようございます。

横山議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、事故等の報告や共有は適切に行っているところではございますが、事故に至らなかった事例についても、今後、園長会議などで情報共有を図ってまいります。

2点目につきましては、保育士資格のない補助員による適正な保育やキャリア向上のため、一定の研修制度は必要であり、機会を捉えて研修を実施してまいりたいと考えております。

3点目につきましては、引き続き子ども一貫教育やコミュニティスクールの中で、地域や市民との連携、協働を重要視し、理解と参画が得られるよう取組を進めてきており、保育園においては、研修実施方法の見直しを行い、より効果的な研修となるよう取り組んでおります。

4点目につきましては、保育人材確保や資質向上を目指した民間団体との連携についても、今後検討してまいります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

それでは、1番目の質問、（1）番から順に再質問をさせていただきます。

まずは、糸魚川市における社会インフラの現状と維持管理体制の課題ですが、管理指針にある道路、橋りょう、上下水道、その他の中で、市民から不具合などの要望が多い項目は何でしょうか。また、その要望について対応できている割合は、どれくらいになっていますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

おはようございます。

お答えいたします。

建設課の所管では、やはり道路、除雪ですか、の関係の要望を多くいただいております。

それと対応の状況ということでございますけども、交通量の道路状況等を考慮しまして、経過観察等の注視する案件というのもあるんですけども、おおむね半分程度の要望に対応している状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

道路とか除雪。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

樋口ガス水道局長。〔ガス水道局長 樋口昭人君登壇〕

○ガス水道局長（樋口昭人君）

おはようございます。

ガス、上下水道の立場からお答えさせていただきます。

ガス、上下水道の不具合で、市民から要望といいますか通報の多いものは、漏水、ガス漏れ、下水道管の詰まりなどで、いずれも生活に必要不可欠なライフラインでありますので、安全や機能が確保されるまで全て対応しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

道路の関係と除雪が多いということと、あとガス・水道の関係は、安全、市民の生活に関わるもの全てが対応しているということで理解いたしました。

では、要望が入ってから、補修までの対応までの流れというのは、どのような形になっておりますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

要望を受けてから対応までの流れということでございます。

まず、要望を受けましたら、まず現地のほうに出向いて確認のほうをさせていただきまして、その確認した中で、簡易的な修繕といいますか対応可能なものであれば、まず、実施可能な施工業者さんを選定しまして、それで見積り依頼を行って、施工業者を決定して、工事のほうに着手すると

いう流れで進めております。

また、大規模といいますか規模の大きい修繕につきましては、やはり金額も大きくなるということから、次年度以降に、予算要求等をさせていただきますして、工事等の入札によって施工業者を決定して、修繕等を行っている状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

簡易なものというか、それほど市の予算とか財政にあまり影響を及ぼさないものに関しては、業者を選定して、見積り依頼を行って、そして業者を決定した後工事に着手するという流れで理解いたしました。

では次に、その建設課ですとか、あと農林水産課、ガス水道局の行政職員の数と、あと年齢構成は、それぞれどのようになっていますでしょうか。主に補修などの維持管理に関わる職員の負担に、課題などはございませんでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

渡辺総務課長。〔総務課長 渡辺 忍君登壇〕

○総務課長（渡辺 忍君）

おはようございます。

お答えをさせていただきます。

行政職員の数と年齢構成ということでございます。

まず、建設課につきましては、19名の職員がおりまして、割合としては50代が26%、約でございますが、40代が58%、30代が11%、20代が5%。農林水産課につきましては、全体で25名の職員がおりまして、50代が28%、40代が44%、30代が12%、20代も12%、10代が4%。それからガス水道局につきましては、全体で35名の職員がおりまして、50代が40%、40代が37%、30代が17%、20代が6%というふうになっております。いずれも40代、50代で7割を超える職員となっております。

それから、職員の負担・課題につきましては、やはり年々職員数が減っておりますことから、職員1人当たりにかかる個々の負担が大きくなってきているというのが現状でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

40代、50代が7割を占めているということで、これから、この糸魚川市、人口減少も大きな課題でございますし、やはり行政の職員さんの数というところを確保できるのかということも大きな課題になっていくのではないかと、それが維持管理とかそういうものに関して影響を及ぼすのではないかとこのところを懸念しております。

では、次に（２）番の質問に移りたいと思います。

人口減少や労働力不足が懸念される、これからの糸魚川市における管理体制の構築とか統廃合の必要性ということで、今ほど市長のお考えもお聞きしましたが、建設業界に訪れる２０２４年問題を市内企業に当てはめて、行政としてどのように捉えているか。また、それに対してどう関わっていけるかをお聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

建設業界におけるということで、２０２４年、令和６年度になりますが、罰則付の時間外労働規制、こちらが適用になると認識しております。それにつきまして、建設業におきまして、働き方改革が促進されると捉えております。

ただし、今ほど職員の数でもあれだったんですけども、この建設業者の現状としましても同じような形で、勤めている方の高齢化が進行しておりますし、また若手の確保、また育成が喫緊の課題であると考えております。

関わり方なんですけども、現場の環境の改善や週休２日の促進ということで、発注者として建設業の働き方改革の取組に努めておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○３番（横山人美君）

今ほど建設業界においても、やはり高齢化とか人材不足が進んでいる。行政においても同様であるということで、この社会インフラの維持に関わっている市内企業の担い手が不足しているという、不足が糸魚川市行政に今度与えてくる影響というものについては、どのようにお考えになっていらっしゃるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

この社会インフラにつきましては、市民生活に欠かせないものでございます。この担い手不足によりまして、その維持に影響が出るということは、地域の社会の安全や安心、こちらのほうの確保に影響が出ると捉えております。特に災害の対応、あと先ほども出ましたが、冬期間の除雪の関係とか、生活に直結する部分を担ってもらっておりますので、この事業のノウハウの継承や必要な業務を行うことが困難となるのが考えられるので、影響は少なくないと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

そうですね。市民の安全・安心を保つということと、近年多発している災害、冬期間におけるいろいろな課題、道路における課題、いろいろあると思うんですけども、それは少し、ちょっと後ほどの質問につなげるので置いておきます。

では、じゃあこれから糸魚川市としてどのような公共施設を維持管理していかなきゃいけないかという点で、公園の課題について少しお聞かせいただきたいと思います。

管理指針の中には、多くの公園があると示されています。この市内の公園についての課題には、今現在どのようなものがありとお考えでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

お答えします。

今、市でも多くの公園を管理しているんですけども、やはり今後、人口減少に伴いまして、今の既存の公園の、例えば除草とか維持管理、あと施設の改修ですか、こちらが継続が非常に困難になってくるんじゃないかということが考えられます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

そうですね。市域の広さに対する人口の割合から見て、インフラ資産の道路や橋りょうなどは、簡単には統廃合は難しいのではないかと考えておりますが、公園であれば、今使っていない公園であるとか、なかなか頻度が少なくなってる公園であれば、数は減らせるのではないかと私は考えております。管理指針の課題にもある公園についての在り方検討は、進んでいらっしゃいますか。検討された内容があれば、お聞かせいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

管理指針の現状と課題ということで、人口が減少していく中で施設の当然老朽化も進みますし、あと施設の更新には大きな費用が必要となってきます。今後、施設の更新とか整備を行う際には、今までと同様の施設を更新するのではなくて、やはり必要性とか、あと費用対効果ですか、そちらのほうを十分検証させていただいた上で、今後の公園の在り方について検討していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

私も管理指針の中にある公園というもののところを全て読ませていただきました。市内の一部公園には、現在利用がなく、ほとんど利用がないところもあるというふうに指針の中には明記されております。こちらも積極的な検討をお願いしたいところでございます。

では次に、在り方検討の一つとして、（3）番の質問にも関連いたしますが、長岡市や三条市で導入している社会インフラを含む公共施設包括的民間委託、これは、市内の建設業でありますとか土木業、造園業などを1つの共同企業体として、社会インフラの維持管理の一部を民間委託する施策ですが、これを糸魚川市に仮に当てはめた場合、考えられるメリットについてお聞かせいただけますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

今ほど提言のありました長岡市、三条市の包括的民間委託ですか、こちら私のほうも調べさせていただきました。メリットとしては、官民相互の負担が軽減されるとか、あと業務のスピードが増すということが考えられると思います。当市の適した管理の在り方を検討する上で、こういったやり方のほうがいいのか、もしくは、またほかのやり方があるかも踏まえて、今後検討する必要があると捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

今、課長おっしゃるとおり、行政への負担軽減でございますとか、あと市民が要望を上げてから改善されるまでのスピード感というものは、大切なものでないかと考えます。先ほどの人材不足ということも併せて、地域、糸魚川市に即したメリット、またはメリットの裏には必ずデメリットというものもございますので、併せて検討をお願いしたいところでございます。

では、少し話題を変えて、都市公園、糸魚川市にある都市公園の今後の維持管理はどのように考えていらっしゃいますか。民間活力を積極的に導入して、より多くの人に利用してもらうようなお考えはございませんでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

長崎建設課長。〔建設課長 長崎英昭君登壇〕

○建設課長（長崎英昭君）

都市公園の今後の維持の在り方につきましても、引き続き検討のほうを考えております。その中で、民間活用についても、併せて検討のほうをしていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

国土交通省も都市公園における官民連携の推進を示しております。公園の可能性や将来性を柔軟な発想で引き出している先進事例もたくさんございますので、ぜひこちらも積極的な検討をお願いしたいと思います。

では、（3）番の質問に移りたいと思います。

米田市長にお伺いしたいと思います。

今回の流れの質問の中でいただいた答弁で、糸魚川市の課題を踏まえた上で、先ほど市長からもお言葉いただきましたけども、これからの糸魚川市にとって、迅速な市民ニーズへの対応と解消、行政負担の軽減、市内の民間企業の活性化を目的に、まずは道路、橋りょう、上下水道、公園などに対して可能な部署やエリアから、包括的民間委託や積極的な民間活用の可能性を探ってみてはいかがでしょうか。

また、市内業者の方々と、この課題を共有し、勉強会から始めてみてはいかがでしょうか。ご提案したいと思います。よろしくをお願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

冒頭お答えいたしましたように、糸魚川市、非常に広域な市域を持っておるわけでございまして、その中でやはり住民がお住まいされておるわけでありまして、なかなか早急に今の状況は変わるということはないと思っております。

そういう中で、公共施設に対してどう対応していくかというのは、本当に行政としては大きな課題であるわけでありまして、その運用の仕方、そしてまた、これをどう維持していくか、非常に悩む大きな事柄であるわけでございますので、新たな展開、やはりどっかでそういったところを考えなくちゃいけないんだろうと思っております。民間委託、また民間業者の知恵を借りて進めさせていただくということも、また大きな事柄だろうと思っております。今の段階で、どのようにすればいいかというのは考えを持ってはございませんが、これからの中で新たなこの時代に先駆けて、民間委託と行政とどのような新たな展開ができるかというのは、やはりしっかりと考えなくちゃいけないんだろうと思っております。行政の考え方、そして民間の考え方をしっかりとやはり連携をさせていくという形をどのようにすればいいかというのは、私にとっても大切な事柄だろうと思っておりますので、早急に動き始めていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

糸魚川市の市域の広さは変わらない。けれども人口は今減っているという中で、私たちはこれか

らどのようなことをしていかなければならないかということをやはりまた共に考えさせていただければと思います。

では次に、大きな2番の質問に移りたいと思います。

保育・教育・子育て施設における事故に至らなかった事例の収集・共有に関する質問でございます。

さきに行われた調査は、不適切な保育が施設内外への相談を通じて早い段階で改善を促され、虐待を未然に防止できるような環境体制づくりにつなげていくことを目的としております。これを受けて、県子ども家庭課は、市町村にガイドラインの周知徹底を図り、連携していくとしております。今後、糸魚川市では、不適切保育に関してどのような体制づくりがよいと考えているか、あと計画などがございましたら、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

おはようございます。

お答えいたします。

虐待等が疑われる事案の不適切な保育につきましては、絶対あってはならないことでありまして、虐待等の背景につきましては、保育現場の余裕のなさといったものも指摘をされております。

保育士は、日々の保育業務の中で過度に萎縮して、安心して保育に当たれないとの不安もあることが考えられております。子供や、またその保護者が、安心して登園できることであるとか、保育士等が安心して保育を担うことができますよう、今回、国が定めたガイドラインに沿った取組に加えまして、保育現場の業務の負担軽減であるとか、また、これまでも行ってまいりました巡回指導につきましても、工夫をしてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

国は、この命の危険につながりかねないような事例が行政やほかの施設と共有されることは、事故防止を図る上で重要であるとし、ヒヤリハット、これは事故に至らなかったが、危険と判断された事例の評価・分類を行い、改善を講じていくという医療現場で使われている、介護現場でも使われていると思うんですけど、いろんなところで使われているこのヒヤリハットの一連の流れを参考に、教育・保育施設でもその流れを取り入れるに当たっての課題についても検討整理を始めております。糸魚川市では、現在、いわゆるヒヤリハットの事例をどのような流れで扱っていますか。今後、それをリスク管理として、保育・教育に取り入れる予定はございますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

保育が、命を預かる業務であることを再認識する必要があるかと思っております。事故まで至らなかったヒヤリハットの事例の共有につきましては、公立の園長会議等でも促しているところであり、そういった場面での情報共有や伝達が1つの研修となりまして、不適切保育等の未然防止にもつながるものであるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

園長会議であるとかそういうところで共有をされているということで、理解いたしました。例えば、先日ありました給食を長時間食べさせた事例が虐待と報じられておりました。報道の事例は確かに極端で、少しひどいな、少しじゃない、ひどいなというふうに私も印象を受けましたが、慣れない食べ物や嫌いな食べ物にも挑戦するとする保育所における食育に関する指針の範囲がございませう。それをどこまで現場で捉えるかというのも、やはり保育現場においては、一人一人の子供の状態や、あと保育士の食育にかける熱心な思いによっても、保育現場においては、虐待まではいかなくても差が出ると思うんですね。

それで、先ほど課長さんおっしゃったように、何ていうんでしょう、保育士が萎縮してしまう、子供たちが伸び伸びと動けないという環境になるのが一番よくないことだと思うんです、この不適切保育を論じる中で。不適切な保育の定義がはっきりと今は示されていないままの現場において、糸魚川市で今進めているICTなどを活用して、自分以外の職員が経験・実践した、よいことも悪いことも様々な事例を市内全域の保育・教育現場で速やかに共有し、今後に生かす体制づくりはいかがでしょうか。そうすることが、子供たちと職員の心理的安全性を高めて、明るく伸び伸びした現場環境を整えていくものだと考えております。

では、引き続いて（2）番の質問に移っていききたいと思います。

資格を持たず、業務に携わる職員の就業前の研修、就業中の資質向上の必要性についてですが、3番目の質問にも関係しますが、保育・教育における専門性は、その資格や免許がある限り、大いに尊重されるべきものと考えます。保育補助員、教育補助員、子育て支援センターなどの現場に配属される会計年度任用職員の募集、採用、委託に関して、資格の有無は、どのように定めていらっしゃるでしょうか。

また、資格を持たずに子供たちと関わる方への研修は、年に何回ぐらい実施されていますか。また、その内容は充実し、十分現場に生かされていると評価なさっていますでしょうか、お聞かせください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

会計年度任用職員につきましては、資格のある方、また資格のない方の両方を募集しているところ

ろでありまして、資格の有無につきましては、その職員の配置であるとか給与等に反映してるところであります。

また、資格のない方の研修につきましては、園長であるとか、また周りの保育資格のある方によりまして、業務をしながらの研修、OJTというふうに呼んでおりますが、そういったものの中で、保育に対する子供との接し方であるとかといったものを研修しているところではありますが、今後また、研修の手法については考えなければならないというふうに捉えております。

また、保育士関係の研修につきましては、各園におきまして、外部人材によります年2回の巡回指導であるとか、保育指導員によります毎月の巡回指導を実施しております。

また、教育補助員の関係につきましては、職種に応じまして、子供への対応方法等について年に数回実施をしてきておりまして、これらが資質の向上につながっているものというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

私、決して何だろ、その資格がないことを駄目とは申しておりません。そうではなくて、やはり今、保育現場の中でOJTとおっしゃいましたけども、仕事をしながら研修につなげていくというようなことも今お聞きしましたけど、資格のない方に。果たして、それが糸魚川市の本当の、保育現場において、とても忙しい保育現場において、それを本当にきちんとなされているのかなというのが、私の想像の中で申し訳ないんですけども、やはりちょっと心配するところがございます。ですので、その子の一生を左右すると言っても過言ではない幼児期であるとか、学童期において、その環境において、どんな大人と出会うかは、非常に重要な要素だと考えております。子供たちの健やかな成長に関わる人材不足が、関わる職員の質の低下にならないような採用前の研修、そして継続的なスキルアップの体制が、不可欠であると考えております。

最後は、（3）番、（4）番の質問に移りたいと思います。

令和3年第3回定例会で、地域における子供たちに関わる人材育成として、市民大学のような養成講座を立ち上げ、幅広く学べる場を提供し、地域連携教育につなげる施策と人材確保を提案しております。このとき市長からは、広く市民の皆様や時間に余裕のある方、知識のある方に呼びかけていきたいというご答弁をいただいております。

先ほどの市長答弁にもありましたし、そして課長さんの先ほどの答弁にもありましたけども、有職者の研さんはもちろんですが、資格を持たずに現場で子供たちと向き合ってくださいる方々へ保育・教育への一定水準を保つべく、市民の中にある人材を活用した民間の教育研修プログラムの導入を再度提案したいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

不適切な保育であるとか、また重大事項への適正な対応を含めまして、保育士等の資質向上は、さらに必要になるものというふうに捉えております。

またその一方で、保育の楽しさを理解いただくことが、将来的な資格の取得であるとか、また資質の向上、スキルアップにもつながることも大切と考えているところであります。実際の業務に従事する前の保育の基礎知識であるとか、子供への接し方等の研修プログラムが構築できないか、現在検討しているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

横山議員。

○3番（横山人美君）

ぜひ検討を進めていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

では、最後に、3番目の質問に移りたいと思います。

2035年ということで、どうしてそんな先の質問をということで皆さん思われたのではないかなど懸念しておりますが、この皆既日食については、天文に詳しい市民の方々から課題山積の今の糸魚川市の明るい話題にしてほしいというお声をいただいて、今回提案させていただきました。希少性の高いもの、なかなか手に入らないものには、人は価値を感じるというマーケティング効果を施策に生かしていただきたいと思います。

あと、社会としての集合的な未来をどう描くかという心のタイムトラベルの研究では、現在に影響を与え、人々の心の現在に影響を与え、政策決定や法律に関する人々の意見を変え、自分たちの国や既存の制度に対する帰属意識も左右し得ると言われています。政策を検討・実践する中で、市民はもちろん、目の前に山積の課題に取り組む行政職員の皆さんにも応用していただいて、この話題を日々の活力にしていきたいと思います。

このことをお伝えして、私の一般質問を終わります。

○議長（松尾徹郎君）

以上で横山議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで暫時休憩いたします。

再開を50分といたします。

〈午前10時45分 休憩〉

〈午前10時50分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き、会議を再開いたします。